

はじめにお読みください！

LD-WLS54AG/AP LD-WLS54G/AP

使用上のご注意と機能の制限について

F/W V2.04用

本製品のユーザーズマニュアルに記載されていない使用上のご注意と機能の制限について説明しております。お手数ですがユーザーズマニュアルと併せてこの説明書もお読みいただくようお願いいたします。

LD-WLS54AG/AP、LD-WLS54G/AP共通の制限事項

①WPA-PSKおよびWPA-EAPとAPステルス機能を同時に使用することはできません。

WPAを使用する場合はAPステルス機能を無効に設定してください(WPAを使用している場合、APステルス機能を無効に設定していたとしても、WPAのセキュリティはWEPに比較して強固であり、本製品に不正に接続することは通常できません)。

なお、WEPとAPステルス機能は同時に使用できます。

②WPA-PSKおよびWPA-EAPとロードバランス機能を同時に使用することはできません。

WPA-PSKおよびWPA-EAPを使用する場合はロードバランス機能を無効に設定してお使いください。WEPでは問題なく使用できます。

③ロードバランス機能を有効にしている場合、ご使用の環境によっては接続が不安定になる場合があります。

このような場合は、ロードバランスを使用する代わりに、各アクセスポイントに異なったSSIDを設定するなどしてトラフィックを分散するようにしてお使いください。

④ブリッジモードとスーパーAGモードを同時に使用することはできません。

ブリッジモードを使用する場合はスーパーAGモードを無効に設定してお使いください。

⑤WEPとスーパーAGモードを同時に使用することはできません。

WEPを使用する場合はスーパーAGモードを無効に設定してお使いください。WPAでは問題なく使用できます。

⑥スーパーAGモードを有効にしている場合、無線LAN経由で設定ユーティリティの画面は表示できません。

スーパーAGモードを使用する場合は有線LAN経由で設定をするようにしてください。(無線クライアント側の設定でスーパーAGモードを無効に設定しても表示できません)

⑦SSIDにスペース(空白)文字は使用できません。

スペース文字を使用した場合、スペース以降の文字は無視されます。

LD-WLS54AG/APの制限事項

ブリッジモードを使用している場合、ブリッジ経由での802.1x認証(WEP、WPA-EAP)はできません。

例：2台のアクセスポイント(AP1, AP2)を以下のとおり設定し、802.11aブリッジで接続する

- ・802.11a：ブリッジモード / WEP128bit
- ・802.11g：アクセスポイントモード / WPA-EAP / TKIP TLS
- ・AP2をRADIUSサーバへ接続する

この環境で以下のように接続する

- ①無線クライアントから802.11gを使ってAP1に接続
- ②802.11aブリッジ経由でAP1からAP2へ接続
- ③AP2からRADIUSサーバに接続

この場合、TLS認証を行っても認証は成功しません。

設定ユーティリティによる設定時のご注意点

WPA-PSKの設定を保存後、再起動してから再び〈WPA設定〉画面を表示すると、画面に表示されたPSK(事前認証キー)は設定したPSKとは異なるキーで表示されます(●で表示されますのでキーの内容を確認することはできません)。この状態で **保存** ボタンをクリックすると、設定したPSKとは異なるキーに上書きされてしまいます。これを避けるため、下記のような対応をお願いします。

①設定を確認するだけの場合は、確認後に **保存** ボタンをクリックしないようにしてください。

②他の設定項目(暗号化方式、暗号キー更新間隔)を変更するときは、PSKを変更しない場合でも再度PSK(事前認証キー)を設定するようにしてください。